

夢

振

だ

よ

り

徳之島「夢」振興会議

2006年5月号
第4号

Yumeshin

憲章

みんなが自分の「夢」を持っている
「夢」を持ち続けることは生きる証
ふくらんだ「夢」は明日への力となる
「夢」の実現には努力がいる
「夢」の輪を広げよう
みんなの「夢」は日本中の人の「夢」につながる
徳之島の「夢」を世界の「夢」の輪にしよう

発行所 徳之島「夢」振興会議
編集発行人 松田周三

お問い合わせ
徳之島「夢」振興会議事務局長
定久文三
〒151-0072 東京都渋谷区
幡ヶ谷3-65-15
TEL/FAX 03-3299-3650

<http://www.yumeshin.org>

「夢」振興会議のホームページでもごらんになれます



益満友忠作

徳之島「夢」振興会議 ロゴマークの説明

「夢」の実生(みしょう=種から芽を出して成長すること)を表現
色彩・・・花は紅の情熱、葉は緑の活力
葉・・・双葉は象形文字の無限大、若芽は未来
花・・・歓喜・・・夢の実現

徳之島「夢」振興会議NPO法人に移行

「夢」振設立当初からの目標であったNPO法人への移行について、一連の会議を経て決定された。具体的には今秋を目途に認可を得ることになるが、再度設立趣旨及びNPO法人についての概略を掲載し理解を求めることとした。

1 趣旨

日本は、戦後の物資不足から、一貫して、「もの」における豊

かさの追求に取組み、高度成長を導く中央集権的体制の下、大量生産、大量消費のシステムを大きく発展させ、もの豊かさや効率の成果の点では、世界のトップランナーの地位を獲得しました。

しかし、舞台は大きく変わり、今や、環境の時代、知の時代といわれ、社会の至る所で、従来型の価値観や価値を生むシステムに見直しが必要な状況になった。その結果は、「地方分権と地域活性化」、「規制改革と特区新設」、そして「市町村合併奨励」など、「地方や民間」に対して、自主的な発想による新たな価値の創造と新しい国造りへの貢献が求められています。

「PRI (Private Finance Initiative: プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)」方式を先進国である英国から取り入れ、公共施設等の建設、維持管理、運営等に導入を図りつつあります。

しかし、特に末端の地方自治体には、自主的な企画による価値創造を推進できる力量は、残念ながら、まだ、十分に育っているとは云えません。

そのことは、折角の地方分権が進められても、基本的な構想・企画部分は中央のシンクタンクなどに、極端な場合は、丸投げ的に依存するという、一部で見られる状況に現れていると思います。

これからの知の時代を生き抜くためには、住民も、行政にいたずらに依存するのではなく、行政と協力して、地域の問題解決と新たな価値創造の課題に、主体的に参画することが求められているのではないだろうか。

この問題を、いわゆる離島や僻地について考えると、事情は深刻と云わざるを得ません。様々な個別的事情がある一方で、地方分権のメリットを享受するための構想・企画、政策立案などの点では、必ずしも十分な人材が育成されていない事情があるためです。

この点の克服には、国や県レベルの支援を仰ぐという従来の延長線上の方向に加えて、二つの手法があると思われま

その一つは、過疎・僻地と云われる本質的に同じ境遇の自治体が出来ただけ連携を取り

あつて、問題点や経験を共有しつつ、地方分権・自治のメリットを追求することでしょう。

(2ページ目へ続く)